

令和4年度あおもりフィールドスタディ支援事業

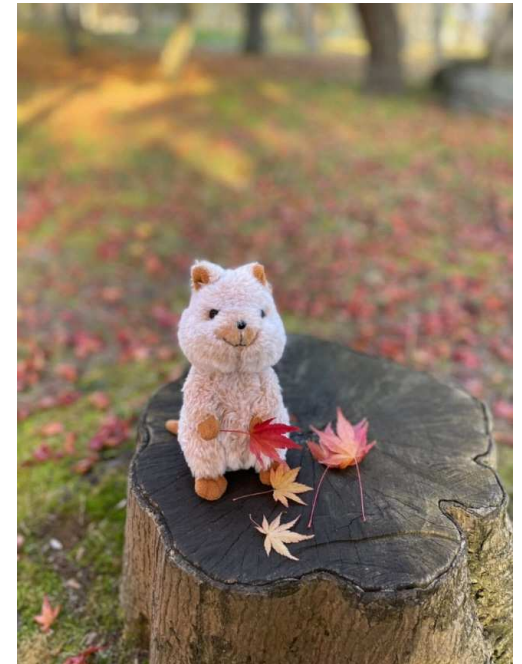
事業成果報告書

事業名： 「ぬい撮り」を活用した郷土学習プログラム事業

実施者： 青森大学ぬい撮り倶楽部

「ぬい撮り」とは？

観光名所、自然風景、スイーツなど様々なものを背景として「ぬいぐるみ」の「ばえる画像」を撮影すること。
また、その画像をSNS等で発信すること。



1 団体の紹介

(1) 団体概要

青森大学ぬい撮り倶楽部は、令和3年4月に、青森大学公認の学生サークルとなった。令和4年度の部員数は、22名である。

(2) 活動内容

- ・独自に設定した観光コースで撮影したぬい撮り画像をSNSで発信し、青森県の魅力発信に貢献する。現在設定しているコースは、「下北コース」、「中南コース」、「縄文世界遺産コース」。
- ・上記コースを活用し、「ぬい撮りリモートツアー」のビジネス化に挑む。
- ・小・中・高等学校における教育活動の充実を支援するための「ぬい撮りを活用した学習プログラム」の開発と、その運営ノウハウの蓄積 (← **本事業の原点**)
- ・その他、「ビジネスプラン開発」や「地域貢献活動」に応用可能なぬい撮りの可能性を探究する。

2 事業概要

(1) 事業立案の背景(地域課題)

外ヶ浜町においては、様々な対策が講じられているものの、若者の流出、少子化、人口減少などに歯止めがかからない状況である。

(2) 事業の内容、目的

大学生の支援のもと、外ヶ浜町の小学生が、「ぬい撮り」を活用した郷土学習を行った後、学習場所(=観光資源)の魅力を伝えるポスターの作成とSNS等による画像の発信を行う。

この異世代間交流による郷土学習活動は、次のねらいを持つ。

- ・小学生の郷土に対する愛着心を育成し、地元定着につなげる。
- ・観光資源の魅力発信により、観光客誘致に貢献する。
- ・「ぬい撮りを活用した郷土学習をコーディネートする。」というサービスをビジネス化する。

(3) 作成するポスターのイメージ

【設定】

「ぬいぐるみ村」の「ぬいぐるみ小学校」に通うぬいぐるみの子どもたちが、修学旅行で大平山元遺跡を訪れ、そこで学んだことや楽しかったことをポスターにまとめた。

僕たちの
修学旅行の
記録だよ。



- ・題名
- ・設定の説明
- ・メンバー紹介

- 集合写真と場所の説明
- ・大平山元遺跡
- ・大山ふるさと資料館

- スナップ写真を配し、ぬいぐるみのセリフを書き込む。

3 活動スケジュール

(1)小学生による青函トンネル記念館の魅力発信事業

- ・期 日 令和4年10月15日(土)
- ・対 象 外ヶ浜町放課後児童会に在籍する児童

(2)小学生による大平山元遺跡の魅力発信事業

- ・期 日 令和4年11月8日(火)
- ・対 象 外ヶ浜町立三厩小学校の4年生、6年生(計8名)

(3)小学生による平館の魅力発信事業

- ・期 日 令和5年1月6日(金)
 - ・対 象 外ヶ浜町放課後児童会に在籍する児童
- ※活動フィールドは、「おだいばオートビレッジ」と平館灯台

(4)全事業終了後に関係者が一堂に会して振り返り会を行う。

4 活動内容

(1) 参加者数の実績

番号	フィールド	実施日	対象	対象人数	大学生人数	高校生人数
1	青函トンネル記念館	10月15日	外ヶ浜町放課後児童会	14	8	5
2	大平山元遺跡	11月8日	三厩小学校(高学年)	8	7	
3	平館灯台周辺	1月6日	外ヶ浜町放課後児童会	9	3	3
			人数合計(のべ)	31	18	8



青函トンネル記念館の食堂にて。松川カレイ、サーモン、海峡マグロの三色丼を素材にぬい撮り

※当初、大学生が、小学生の活動を支援することを想定していたが、別な事業で連携している青森南高等学校JRC・ボランティア部も支援者として参画した。

(2) 事業の流れ

ア 事前学習

小学校、学童保育施設等を訪問し、参加予定の児童を対象に、学習フィールドとなる史跡、名所等の概要説明をした後、「ぬい撮り」の体験を行う。



【令和4年10月26日。三厩小学校にて】

事前学習には、大学生との活動に慣れてもらうねらいもある。写真右では、タペストリーを背景として、ぬい撮りの体験をしている。

イ 事業当日(午前)

貸切バス等で、学習フィールドである史跡等を訪問し、地元協力者(教育委員会職員、ボランティアガイド等)による解説を受けた後、ぬい撮りを行う。



【令和4年10月15日。青函トンネル記念館での事業】

- ・写真左 バスの中では、大学生と小学生が並んで座り、打ち解け合うために雑談をする。
- ・写真中 記念館シアターで、青函トンネル建設事業を紹介する映画を見た後、館長から解説を受ける。
- ・写真右 青函トンネル龍飛斜坑道線で、海面下140mの体験坑道へ。坑道内にしみ出る海水を集めた水槽の前で、ぬいぐるみたちの集合写真を撮影していたら…。なんと水槽の中の魚が特別出演!!

ウ 事業当日(午後)

ぬい撮り画像をプリントアウトし、これを活用して、学習フィールドの魅力を発信するポスターを作成する。(この作業は、訪問先の会議室等で行うこともあれば、小学校、学童教室等に戻って行くこともある。)



【令和5年1月6日。おだいばオートビレッジでの事業】

- ・写真左、中 画像、説明文、せりふの吹き出しなどを模造紙に貼り付け、ポスターを作成する。大学生2～3人と小学生5人程度からなる班を編制し、班ごとに1枚のポスターを作成する。
- ・写真右 完成したポスターを代表の小学生が説明した後、ポスターの前で記念撮影。

5 事業の収支決算

(1) 収入の部

(単位:円)

区 分	決 算 額	摘 要
自己負担額	101,083	青森市産官学連絡会議給付金など
市補助金額	402,000	令和4年度あおもりフィールドスタディ支援事業補助金
合 計	503,083	

(2) 支出の部

(単位:円)

科 目	決 算 額	摘 要
事務費	123,348	事務用品、ぬいぐるみ
使用料	379,735	バス借り上げ料、入館料、レンタカー利用料
合 計	503,083	

※当事業をビジネスプランとして運用する場合の収支に関する見解は、「6 事業成果」に記載する。

6 事業成果

(1) 当初設定した目的の達成状況

ア 「小学生の郷土に対する愛着心の育成」について

【事業に参加した小学生へのアンケート結果より】

- ・訪問した施設、史跡等を「すごい」、「町の自慢」などと肯定的にとらえた児童は、全体の98%。
- ・高学年の児童の多くが、「外ヶ浜町の他の名所をぬい撮りで発信してみたい。」とコメントした。

このことから、「ぬい撮り」を活用した郷土学習は、学習意欲を高め、郷土への愛着心を育む上で有効であると判断できる。

イ 「観光資源の魅力を発信し、観光客誘致に貢献する」について

作成したポスターを現地の施設内に掲示してもらうとともに、ぬい撮り画像をSNS等で発信しており、これらが観光資源の魅力発信の役割を果たしているとは言えるが、観光客誘致への具体的な貢献は、まだなされていない。

ウ 「ぬい撮りを活用した郷土学習のコーディネート」のビジネス化

本学習プログラムを認知する自治体等が増加していると思われる。現在、中南地区の自治体の教育委員会より、「令和5年度に、公民館の学習活動事業に集まる小学生を対象に、本プログラムを有償で実施してほしい。」との依頼が来ている。

人件費相当程度の収益を得る見込みはついたと判断される。

なお、「5 事業の収支決算」で示した支出については、次のように縮減できる。

【事務費】

支出の多くは、ぬいぐるみ及びポスター作成のための文具類の購入費である。ぬいぐるみは、適宜補充する必要があるが、文具類については、依頼主に準備してもらう。

【使用料】

大半が、バス借り上げ料である。依頼主側で、自治体所有のバスを使用すれば、当方の負担はなくなる。

【旅費】

大半が、当方から打合せ等に出向く時のガソリン代である。ビジネス化する場合は、打合せマニュアルを作成し、打合せの回数を減らすとともに、ガソリン代を依頼主の負担とする。

(2) その他の効果等

【高校生が支援者として参画】

当初の予定にはなかったことであるが、高校生が支援者として参画し、期待以上の動きをしてくれた。このことにより、今後、高校生のみならず、中学生も支援者として参画可能であるという見込みができた。実現すれば、中学生、高校生に地域貢献活動の機会を提供できることとなり、また、異世代間交流の幅が広がる。

【異世代間交流に対する評価】

外ヶ浜町の地元協力者(教育委員会職員、町役場職員、各施設の指定管理者等)からは、「小学生がとても楽しみにしている。」というコメントが寄せられている。本事業は、高校がなく、少子高齢化が進む地域においては、小学生に対して異世代間交流の機会を提供する事業として評価されている。

7 総評

(1) 参画した大学生、高校生のキャリアアップ

「6 事業成果」に記載した以外の効果として、参画した大学生、高校生のキャリアアップが挙げられる。

当事業に参画する大学生は、事前打合せにおいて、地元協力者に対して事業説明を行うなどの活動を通して、文書作成能力、プレゼン能力、コミュニケーション能力を育てている。

また、事業実施当日は、大学生、高校生とも、小学生と触れあうことで、コミュニケーション能力を育てている。

(2) 学習プログラムの成果と課題

- ・プログラムを複数回実施する中で試行錯誤し、当初は2時間半を要していたポスター作成時間を90分間にまで短縮することができた。これにより、小学生に対するオリエンテーションの時間や、活動場所までの移動時間を余裕を持って設定できるようになった。
- ・事前学習や事業当日の訪問先での解説の内容をより緻密に打ち合わせることで、学習効果の向上を図る必要がある。